

2025 年 10 月 16 日

特別研究期間報告書

学科 アグリビジネス学科

職名 教授

氏名 渋谷往男

1. 留 学 先：ニュージーランド リンカーン大学
2. 研究課題：農業先進国における大規模農業経営の経営戦略とその持続性に関する研究
3. 留学期間：2025 年 4 月 8 日～2025 年 9 月 18 日
4. 留学期間中の活動報告

農業の「成長産業化」はわが国の農業政策において重要な課題となっている。留学者はこれまで、一貫して成長産業化に資する研究を主に国内を対象に行ってきた。農業は各国の自然環境や社会環境を基盤としており、国ごとにその様相は異なる。このため単純な比較はできないものの、農業が成長産業とされている国の実態を理解することは重要である。そこで、温帯、島国、先進国など共通点が多い農業先進国としてニュージーランド（以下、NZ）を留学先とした。

留学中の研究目的は、輸出を前提とした大規模農業経営について、生産段階だけではなく、研究開発、流通、マーケティング、さらには知財管理などバリューチェーンにおける一連の取り組みについて把握することである。加えて、農業を持続可能な産業として発展させるために経済的な価値のみならず環境的価値や社会的価値の追求とどのように整合性を取っているのかを解明することである。

留学期間中は、当初想定していなかった点として、NZのような農業先進国であっても後継者問題は重要な課題となっている点である。これに対して、農業人材育成プログラムが存在し、経営人材の教育プログラムが存在していることがわかった。また、政府の第一次産業省（日本の農水省に相当）への調査によって、基本的に補助金は廃止されており、環境対策や先住民としてのマオリによる農業振興等を政策的な課題として力を入れていることがわかった。しかし、農村社会の過疎化については日本同様大きな課題となっており試行錯誤を続けている印象がある。さらに、国際的なキウイフルーツの輸出企業であるゼスプリ等への調査によって、知財に基づく輸出型農業の一連の取り組み実態を把握することができた。加えて、大学院生向けに実施した講義では日本の農業を多彩な国の院生に説明し、議論するという貴重な経験ができた。今後は日本とNZの農業の比較研究を深めて、成長産業化に基づく日本農業の課題解決に資する研究を進めていきたい。

最後に留学を支援して下さった東京農業大学の皆様、受け入れていただいた Hugh Bigsby 学部長、Hamish Gow 教授、そして現地および日本で、支えて下さった皆様に厚く御礼申し上げます。